

経営比較分析表（令和2年度決算）

山形県 上山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	67.46	98.49	3,795	

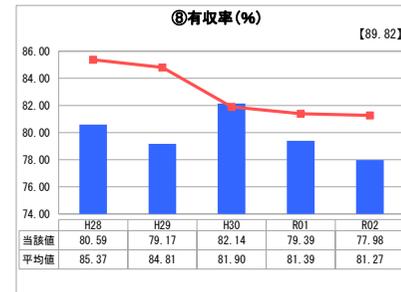
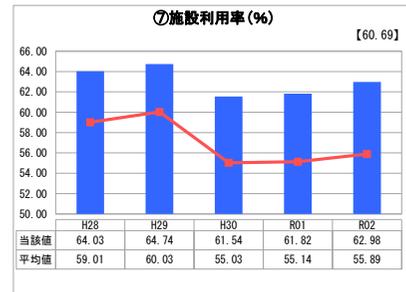
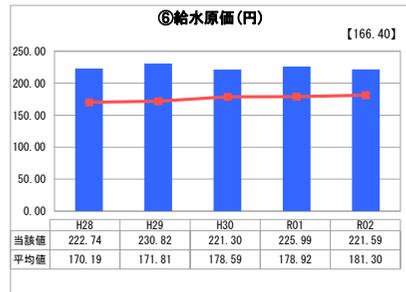
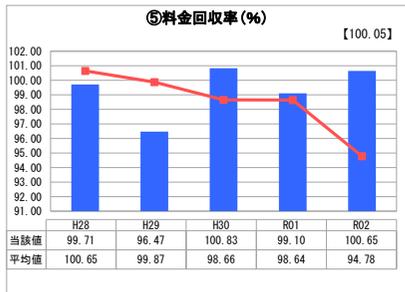
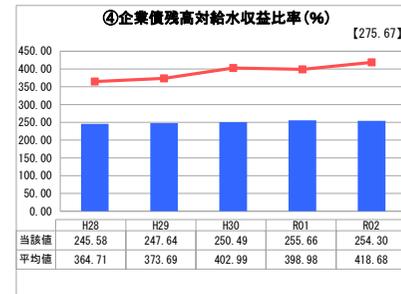
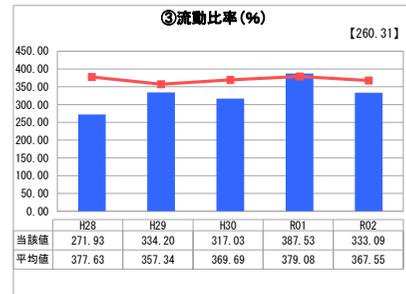
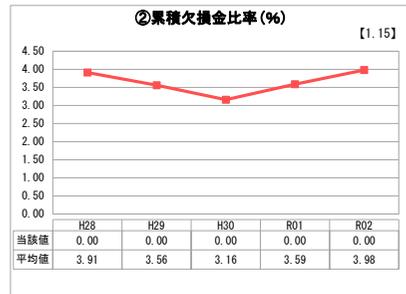
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,564	240.93	122.71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,972	37.80	766.46

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）

【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

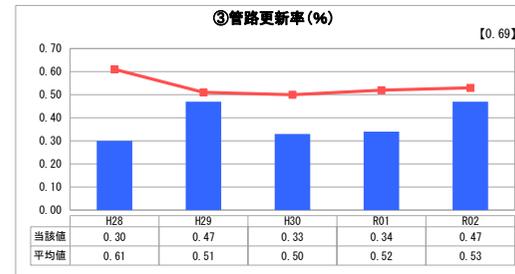
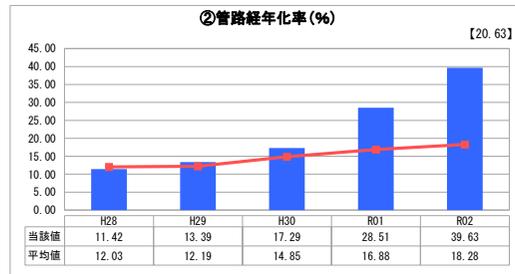
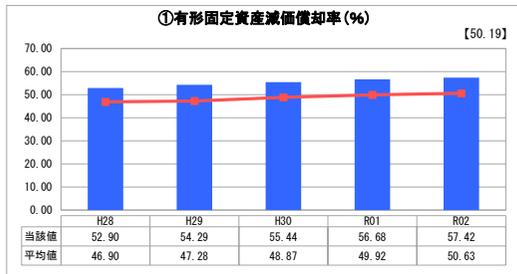
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
② 料金回収率
⑦ 有収率
⑧ 施設利用率
経常収支比率及び料金回収率は100%を超えており、健全な経営を保っている。しかし、施設の利用率が高水準の割に有収率が下落してきており、収益につながっていない。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
② 管路経年化率
③ 管路更新率
管路経年化率が大幅に上昇し、拡張工事時期に一齐に取得した管路が法定耐用年数を迎えていると考えられる。しかし、管路の更新率が低く有形固定資産減価償却率が高いことから、管路全体の老朽化が懸念される。

2. 老朽化の状況



全体総括

給水人口は減少傾向が続いており、現在経営は健全性を保っているが、今後も現状を維持していくためには、有収率の向上を図ることが必要である。また、管路の老朽化に対応するため、ダウンサイジングに取り組みつつ計画的に管路更新を進めていく。